

5周年も夢はさらにその先

豊橋百農人が
農業イベント

10年後に巨大マルシェを

体験や展示
コーナー
物産

豊橋や田原市の農家らで作る「豊橋百農人（とよはしひゃくのうじん）」（鈴木義弘代表）は8日、結成5年を記念した農業イベント「藝農人（げいのうじん）」

を豊橋駅南口駅前広場で開いた。メンバーによるトークライブや地元産農産物の物産展、遊び心を盛り込んだ体験コーナーなどで農業大国・東三河を市民らにア

ピールした。

晴天に恵まれたこの日、田原ポークや豊橋産イチゴのクレープなど地元産農産物に舌鼓を打ち、多くの家族連れで会場

はにぎわった。

豊橋うなぎのつかみ取りでは、子どもたちがうなぎ1匹を約5分離れたかごまで運んでタイムを競った。市内の小学2

年生天久保拓海くん（8）は「豊橋うなぎは食べるのもつかむのも大好き」と滑るウナギに苦戦しつつ31秒の好タイムを記録した。

同団体は2009年に無農薬レモン栽培で知られる河合浩樹さんが立ち上げた。現在米や柿などの

農家ら15人が集まり、農業技術の向上や異業種連携などで地元活性化に努めている。河合さんは「地域に愛され文化レベル

の高い農家が増え、10年後には1000人の農家が集まって大きなマルシェを開催したい」と次なる目標を語った。（飯塚雪）



参加者＝豊橋駅南口駅前広場で
滑るウナギに苦戦して運ぶ